

開会の挨拶



S. Dolgor
モンゴル日本語教師会 顧問

皆様こんにちは。大切なお休みの日にお集まりいただきありがとうございます。また、教師の日のお祝いも申し上げます。皆様ご存知の通り、今は日本もインドネシアも自然災害で大変な時期です。嶋田先生、片桐先生、お忙しい中私達のためにわざわざお時間を作ってモンゴルまでお越しいただき、心よりお礼を申し上げます。

今年はモンゴル日本語教師会が活動を始め20周年という節目の年です。人間であれば二十歳、つまり大人になったということです。皆様のおかげで20周年を迎えられました。これまでご協力くださった数々の日本語の先生方、いつも支援してくださいました国際交流基金、在モンゴル日本国大使館を始め多くの方々に、この場を借りてモンゴル日本語教師会を代表し心から感謝を申し上げます。

モンゴル日本語教師会の活動は最初は勉強会という名前でした。1994年に始まり、大学におけるカリキュラムの作成や、どんな科目を入れるか、どんな教材を使うか等、様々なテーマについて皆で一緒に話し合い学んでいました。今日、ここにいらっしゃる諸先輩の先生方も覚えていらっしゃることと思います。続いて1996年から1998年には、大学の日本語教育カリキュラムの改善、各科目とその教え方、初中等日本語教育における問題点等のテーマを中心にシンポジウムやワークショップ、勉強会を行っていました。参加者は30人足らずで皆経験の浅い若い先生方だったため、大変苦勞していたと思います。このように様々な問題の解決に取り組みながら、本日に至りました。

今回のシンポジウムでは、国際交流基金日本語上級専門家である片桐先生の指導の下JFスタンダードに準拠して作られたモンゴルの日本語学習者のための教科書について、初中等・高等教育機関の先生方が共同で行った分析、調査、問題点等が発表されます。これは、モンゴルにおける日本語教育が発展してきていることを意味するのではないのでしょうか。モンゴルで日本語教育を行っている各機関の連携・つながりの果たす役割は大きく、それは今後のよりよい研究につながる、つまり、教科書の開発、教授法の開発、学習者の学習意欲向上にも重要な力になるのではないかと思います。このような意味で、このシンポジウムへの期待、意義は非常に大きいと言えます。

このシンポジウムの成功と、モンゴルにおける日本語教育のますますの発展をお祈り致しまして、開会のあいさつとさせていただきます。20年間皆で力を合わせて頑張ってきました。これからもよろしく願っています。